

学生番号

氏名

次の文章を読んで後の問いに答えよ。

① 人間が野性環境でしだいに最有力種にのし上がることができた最大の理由は何と云っても「集団」を作って多様なきめ細かい相互「協力」をしたことによるものと考えられる。〔a〕、② 生き延びるために集団を作る動物種は人間だけではない。〔b〕、③ 人間以外の集団性の動物の協力の仕組みは種によってほとんど一定であって、新しい状況に対処するために新しい協力方法を編み出すなどといったことはまず観察されることがない。〔c〕④ 人間以外の動物の集団協力の仕組みは基本的に遺伝決定的と言える。〔d〕、⑤ 人間は絶えず新しい集団協力の方式を編みだし続けてきた。〔e〕、⑥ 新奇な集団協力の産物として、文明を築いてきたのである。

(1) 次の〔 〕の中から適切な表現を選び、空欄に入れよ。

〔そして、それに対して、しかし、だから、もちろん〕

(2) 文章中から対比の構造を取り出し、対比図を作成せよ。

記号

< 対比図 >

—A [対比のポイント]

[対比の主題]—

—B [対比のポイント]

解答例と解説

(1) (a) もちろん

① では「集団」が人間を他の動物より強い存在にした、と言っておきながら② では他の動物も集団を作ると言っているのだから、ここは逆接で転換か譲歩である。文章を先に読み進めて行くと、他の動物の集団より人間の集団の優れている点を解説しているのだから、ここは譲歩を表す接続詞を入れるのが適当である。

(b) しかし

ここは上の譲歩を受けているので転換を表す接続詞が入る。

(c) だから

(生物学者からは、③ のみを根拠にこう決めつけるのは暴論だと言われるかもしれないが、この文章の文脈では) ここでは集団による協力の仕組みが種によって固定されていて、環境によって変化はしないと主張したあとで、このことは遺伝決定的であると主張しているのであるから、③ は④ を論証している。従ってここは順接で、帰結を導く接続詞が入る。

(d) それに対して

以下の文では、上で述べた他の動物の集団協力と人間の集団協力の違いを述べているのであるから、ここには対比の構造がありそれを示す逆説の接続詞が入る。

(e) そして

ここには⑤+⑥ の構造があるので単純な順接で付加をしめす接続詞が入る。

(2)

—状況にかかわらず種によって一定  
協力の仕方—  
—絶えず新しい集団協力の方式を編み出し続けてきた